
終わる世界に最後の約束を

youmu7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わる世界に最後の約束を

【Zコード】

Z8974Z

【作者名】

youmuy

【あらすじ】

主人公 藤堂 亜紀（男）通称・俺だが、ある日、同じクラス？の神崎から刀をもらう厳密には返してもらつた・・・かな？その刀は俺の家の宝刀で・・・え？俺こんな生活望んでないんだが？

その日から仲間が増えるわよくわからん理由で切られそうになるわ！俺の日常はもう戻つてこないんだな・・・そう、永遠に

序章～終わりの時の猶予時間～（前書き）

この小説は、初めて書いたので矛盾があると思いますwww
あと、けつこう定番ネタですよね~。

暇なときなどにどうぞ…。ちなみに結構長かつたりするのかな?
でも大丈夫!毎回10話くらいで大体の話がわかる様にまとめるか
ら!!

あれ?・・・見る必要なくねwww そんなことは気にせず!
ゆっくり楽しんでいいってね!!!

序章～終わりの時の猶予時間～

「俺の家には宝刀がある」って言えば何人が信じるだろ？
だってそれは只の模造刀かもしれないのだ。

普通の人にはそんなの見分けがつかないだろうが、
最初に言つた通り

「俺の家には宝刀がある」

だが、この宝刀を巡つて大きな戦争になるとは
普通だれも考へない。

只の不幸だと、時期が重なつただけだと思つた
だか確実に俺だけを狙つてくる集団。
あげくに、味方さえ裏切るものが出る
どうしてこんなことになつたのか・・・。
それを今から説明していこう

序章～終わりの時の猶予時間～（後書き）

序章・・・なんか? プロローグの方がいいかな? どちらでもいい
か w

うん、これだけだとわけわからんね! !
でも見ていけばきっと・・・! !

あらすじ、序章は多少の変更あるかもです! !

第1話～終わりのはじまり～（前書き）

第1話～終わつのはじめ～

自宅 自室

朝・それだけで辛い、だつて朝だぜ？眠いじやん
「あきーそろそろ起きなさい」
とまあこんな感じにいつも通りなわけだが

しかし・・・母さんも疲れないのかな？毎日同じ事して
小さいこひはつるといだけだつたけど今では声を聞いてるだけで落
ち着く

そんなこんなで俺は布団からぬづくと起き時計に目をやる
「7：00か・・。しかし今日の気温3 度ww馬鹿にしてるだろ」

そう特に朝が辛いのはこの為である。みんなもわかるだろ？

こんな寒い中なんで自転車で10分かかる学校へ行かなきゃならな
いんだ。

しかしあま近いんだよなあ～それだけでも良しとするか！

7：10 着替え終了！いやあ着替えるまでってなかなか時間がかかるよね？

寒い日に服を脱ぐとか・・・ちくしょーーー着替えたて寒いよーー
！！

こんなやつとりを続けて5分無駄にした。

7：15 食卓にて ニゴースによれば今日は快晴らしい
つてみればわかるよwwで今日は一日晴れ
「晴れでよかつたねえ」母さんが笑顔で言つ
「まあ寒いからな、晴れでよかつたよ」父さんが言つ
「でもさー。電車の中暑くね？」疑問を聞いてみたり
「それは人それぞれだがこれだけ寒いと逆に助かる」
父さんが質問に答える

とまあこんな日常が好きなんだよ

7：30 歯磨き完了！ゆっくりする時間もあつたから今日は早め

に出るかな

いつもなら10分後に家を出るんだが今日くじけだらう
なんたって今日は快晴だからだ!!

最近曇りや雨でじめじめしてたんだよねえ冬なのに
雪が降ったのは2日だけ曇りや雨からは5日
つまり一週間ぶりの晴れなのだ!!しかも快晴!!
これをテンション上がりましてどうする!!

7：31 登校中

じゃあわくつと学校の説明でもしますか

学校の登校時間は8時40分まで 遅刻したことはない
あとは普通だ。

7：40 学校到着 教室1・1 3階端
さてと着いたわけだが・・早すぎた。

やっぱ早いと教室だれもいねえ
と思つたら奥の席に誰かいる?
うーんだれだあれ?転校生かな?

「あの~、転校生さんですか?」質問してみた
答えは

第一話～終わらぬはじまり～（後書き）

結構短めでいきます！

こついう終わり方つて

続き気になっちゃいますよね！

第2話～災ごの原点～（繪書き）

新キャラ + すべての始まりです！

ここからようやく戦いが動き出すんですね！！

誰がしゃべっているかはわかると思ひので省略させていただいております。

後々、つきますんでww

第2話～災いの原点～

「違います」へ？？じゃあなんで学校にいんの？
あーちなみに黒髪ロング身長160くらいかな？あとは
まあとりあえずだ・・落ち着こう。

多分あれだ！幽霊だ！！あーそう思うと気が楽になつてきましたぞ
とか考えつつも席に着く俺。それに転校生が近づいてきて
「私、あなたと元から同じクラスなんだけど・・。」
えへへ～しましたww友達とかとはしゃぎまくつて
全然クラスの仲間の顔おぼえてないやあ～

「えつと・・すいませんでした！最近学校来ても寝てたり遊んでたりするから

全然クラスの人（男子以外）おぼえていませんでした！！！
まあ全力で謝るのは当然だよね？てか俺ひどすぎだろ！
でも窓際の人の顔とか名前とかつて覚えにくいやねえ～
「私の名前は 神崎 真帆 です」結構怒つてらつしやる
「俺の名前は藤堂 亜紀です、しつてましたよねww」
「下の名前はしりませんでした」

「それが普通ですよww」

とこんなやりとりをしてもだれも来ない

7：45 教室

異変に気づいたのはそこら辺からだらうか、
まず外が暗い、いやちがうな外は青色・・。

へ？青色つてなんだよ！？あれか色つき下敷きでも貼られてるのか
俺は？

でさつきの神崎はどこに？外か！？

?・?・? グラウンド

その中に彼女はいた。

しかし本当に神崎か？青いからかもしれないが・・

いや見間違いじゃねえないつ髪の毛白くなつてやがる

神崎はゆっくりこぢらを振り返る

落ち着け俺、これは夢かもしれない下手に動けば寝ている俺が
変なことになる。。。

「どうしたんですか？　まさか夢、とか思つてます？ふふふ
夢じゃないのか！おっしゃ！！動いても大丈夫だ！！」

あれ今声後ろから・・でも神崎は動いていなかつた・・はず
なのに・・なんで・・おれ・・横に飛んでんだ？

「ぐはあ」グキッ！と鈍い音をたてて地面に叩き付けられた
どこも折れてはいなかつたがしいて言つなら心が折れたなww

「どうしたんですか？弱いですね　あははは

畜生笑いたいのはこいつだよ・・。

どうする？近づく？逃げる？いや逃げるのは駄目だ
いいぜ、倒してやる！！

「やつとその気になりましたか」

神崎が刀を投げてくる。それは俺の前で落ち

「つ！？」俺はこの刀に見覚えがある

よく小さい頃に見たことのあるそれは・・。

「それあなたの家の刀でしょ？」

そうだよく祖父からいわれていた

『その刀を抜いていいのは覚悟ができた人のみ！』

その時俺は・・その刀を・・抜いていた！！

「あはははやっぱあなたのだつたんですね！？」

「だったらどうする？お前を切り刻めばいいのか？」

「怖いですよ、ただ私はその刀の持ち主を探していただけなのです

から

「ならさつきのはなんだ？」そつ攻撃のことだ

「あれはあなたをその気にさせるための唯一の手段ですわ

「唯一？」

「そう時間がないのですよ、こぢらにまほらもつすべく結界も解ける。

だからあなたに一つだけ言っておきます「

- その刀はあなた。その刀を手放すことは許されない -

第2話～災いの原点～（後書き）

新キャラ：神崎！ 初めは156cmだったんですがねww
グラウンド時、神崎の目は赤色です。通常は黒
色つきの下敷き（青）を買えば同じ体験できるかも？ww
ちなみに主人公に見た目の変更はなしとかわいそうに・・。

第3話～敵か味方か～（前書き）

第3話です！

また新しい人ですね～

第3話「敵か味方か」

気づいたら机で寝ていた・。

と・・とりあえず状況確認だな！えつと・・・12時？

あ・・あれ！？学校来たの8時だったよな・。

あー。あの世界時間たつの早いわけか、なるほどお・。

だとしてだ、どうするよ？このまま寝てるか、授業を聞いてるか。
だがそんなことしてる暇はなさそうだｗｗチャイムなりやがったよ

お昼休み

まあアレだ昼食シーンなんていらないよｗｗ

みんな食堂いくから、誰も残つてねーだろうな。

あれ？一人残つてる。同じ弁当組かな？

しかもすごく見られてるんだが

あれか？刀の件か？うそーん、ならくればいいのに・。

あーはいはいきますよーいくから睨まないでーすごく怖いから！－

「で、なんの用なんだ？」まずこれ聞かないと始まんないからなｗｗ

「別に。」！？あれれ？間違えたわｗｗ気のせいいかそうですか

「神崎」「え？神崎？」

「神崎がどうかしたのか？」しかしなぜいきなり？？

「やはり知つていましたか」あはは・・。トランプかよ！－

「知つてるが？」

「では早速・・・宝刀いただきますよ？」あーフラグの方ね理解
「あげませーんよ」なんか変なテンションでいつちつたｗｗ

「そうでなくては困ります」　ですよねー

「ちょいませ」ブォン的な音とともに刀が振られる
教室の中には人が・・・てか昼休みだからだれもいないんだった

ｗｗ

しかも何？刀燃えでますよ？？つてよく見たら・・・剣じゃん！？
だがその炎は机を焦がさなかつた。いわば飾りなんだろう

「死にます？」

「いやです　ｗｗ」

「では、しんでくださいっ！」

「おかしいな　ｗｗ断つたら殺される、理不直ですよ…！」

「よけないでくださいよ、机切つちやいますよ？」

「え？　ちよい　ｗｗやめて　ｗ机はまずい」

「ならなんですか？教室でも切れます？」

「いやいや　ｗｗ切るな！止めてやめろ！」

その時は教室切るとおもつてた・・・。

けどちがつた

そいつは・・・。

チヨークを折つた。

「じみいいいい！！！」

「え？　なにがですか？」（　・　）　「…」　「こんな顔

そんな顔でいわれても　ｗｗかわいいじやないか！

まあチャイムが鳴つたからこいつものように授業の用意してたんだが・。
・。

来た　あの世界だ

第3話～敵か味方か～（後書き）

ちなみにこの間の青の世界は結界です
刀を持つてゐる場合は青くならないです
ちなみに神崎も爆睡してましたww

第 話～補足～（前書き）

なんでこんなことに？など
自分でもわからないところの補足説明です

第 話～補足～

- ・神崎の髪と目の色が変わったことについて
自分の宝刀でないものを持つとそれぞれの効果がでます
藤堂の宝刀は 髪を白、目を赤にする代わりに
攻撃の威力の増加、瞬間移動の使用ができる。
ただし自分に来る負荷はなかなかの物である。場合により吐血する
- ・爆睡について
神崎が夢ではないといったにも関わらず、なぜ寝てたのか。
これはいまいちよくわかつてないのである。
- ・結界について
これは現実とは別の世界ということ
結界にはいくつかのパターンがある
- 1・中にいるものは現実では睡眠中である
(ただし時間経過の結界の場合のみ)
現在の登場はこれだけ
- ・神崎の結界について
これは時間経過の結界
- 時間が経つのが早いため注意が必要
- ・睡眠中の授業について
これはどうしようもない
- ただ先生は起こうとするであろうが
結界時は起きない。
- ただし現実の体に問題が起きた場合は起きる。
・宝刀について
ある家族に元から存在する刀を宝刀と定めた
宝剣も登場したが、これも定められたもの
ちなみに模造刀も極稀に含まれる
- ・宝刀＆宝剣の効果

藤堂の宝刀は現段階で

瞬間移動である

神崎と3話での新キャラは現在不明である

・宝剣の炎について

これは新キャラが持っていた物だが
現実ではただの飾りである。

結界内のみ効果あり

第 話～補足～（後書き）

とつあえずここまで
何かまだわからないことがあれば
感想の方でお願いします

第4話～白熊登場！～（前書き）

まさかチョークをピンポイントで折れるとは・・。
はつ！実はピンポイント攻撃ができるのか？

第4話～白熊登場！～

「神崎さんのでは時間が進むようですが・・・私は進みませんよ？」

「へえ・・・ありがたいな」

「さつきの質問なんですけど」

「なんだ？」

「地味とはなんですか!? 私がですか! そうなんですか! どうなんですか! ...」

「うん、落ち着こうねwww」

「・・・すいません。で、どうなんですか?」

「いやチヨーク折るのがですよ! 、それとかわいいですよ!」

「最後のこりないです」

「えー・・・せっかく勇気でしていってあげたのに」

ブウン またあの剣か

「ここじやあ邪魔は入りませんよね?」

「いや、入るねwww」

「え? どうやって、なんのために?」

「3・2・1、こい!」

「やつほー神崎ちゃんです!」 ここから名前つきでいきます!

? 「どうしたあなたが! ?」

神崎「しりませんよ 呼ばれただけですから」
俺「呼んだだけですから」

神崎「ねえ相坂さん?」

相坂「なんですか?」

神崎「よく人に宝剣みせますねえwww」 あつ・・・。つていう顔して
たてか見せたら駄目なのね

相坂「じゃあ消えてもらわなくては! !」

俺「理不尽な世界だねえ」

相坂「なにもわかつてないやつがいるなーー！」

俺「すいません」

「お? さらになんかくんぞ?」

神崎 & 相坂『え??』

ドゴーン! そんな音とともに。。。

なんだこれ? · · モンスターか?

神崎「え? え? なんでこんなんでてくるわけ?? わけわかんない!!」

相坂「てかなんで来るつてわかつたんですかー?」

俺「知らんがな」

? 「クマアアアアー!!!!」

俺「なにもいえねえよ! てかなにいつてんだよ! 叫ぶなよ! つむるかいよ!」

神崎「てか白熊?」

相坂「さらにぬいぐるみとはやつてくれます!」

俺「どうすんのこいつ! かわいすぎだろwww」

神崎「とにかく倒しますよー!!」

? 「やめてええええ」

俺 & 神崎 & 相坂『ー?』

? 「やめてよう · · 別にまだなにもしてないよ? どうして攻撃するの?」

俺 & 神崎 & 相坂『 · · 。』 イヤ、サケンダジャネーカ · · · 。

神崎「離脱します! アデュー!」

俺「あ! こら逃げんな! · · · 逃げられたww

相坂「私も離脱しますねえ でわ」

俺「ちよつ! ? · · で? クマさん · · 名前は?」 てか俺一人でも世界は消えないのね。

とこりかどうやって抜けるんだ? この世界から

? 「名前 · · · ? ないのでつけてください」
か · · かわいすぎて死ぬ · · 新手の攻撃か?
あ「ええ · · · とアリスでいいか?」

ア「はい！」

あ「でなにしきた

ア「お供です！..！」

マジ、ナンデサケンダノ？

第4話～白熊登場！～（後書き）

アリスの登場ですね！

なぜ人に宝剣・宝刀をみせては駄目なんでしょうね？

第5話～日常世界の一端～（前書き）

わかりにくいけれど、結界に出た後から少し経つてます

第5話～日常世界の一端～

といつわけで現実です

席替えしました！なんでよこが神崎なんだww

神崎「ねえねえ」

俺「なんだよ？」

神崎「結局あの後どうしたの？」

俺「なんかお供するつてさ、ついてきたよ。。」

先生「そこーーーつるわーーー！」

俺＆神崎『すいません』

授業終了

怒られてからは普通にした。

神崎「しつかし。。。どうすんのよ？」

俺「アリスの事はいいだろ別に」

神崎「ちがうよ」

アリス「！－！」

俺「ん？うわっつ」ブンッ

相坂「外しましたか。。。チツ」

神崎「おーやるの？じゃああの世界いつとく？」

相坂「いえ、もう済みましたので」ざつかこいつちやつた。。。

俺「てか、アリスどこいった？」

神崎「え？いないの？？」

俺「ああ、ちょい探しに行つてくる」

神崎「びびりびびり」

廊下

俺「おーい！相坂！！！」

相坂「うるさいですよ、なんですか？」

俺「アリス知らないか？」

相坂「はい？誰ですか？」

俺「ああ、熊だよ白熊」

相坂「あの子ですか・・・知りませんが？」
ん？・・・嘘か？いや、どっちだ？」

攻撃されたときに相坂が盗んだか、攻撃後に神崎が盗んだか。

まあアリスが自分でどこかにいった可能性も・・ジジッ 結界発動音
俺「あのさ・・・やっぱお前なのか？」

?「・・・違う・・・また新しいやつか！！

ブンッ、ぎりでかわしたが・・・

?「ちょっとはやるようで・・・では、フルいきますよー！」

俺「は？」バンッ！ 今の・・・なんだ？

?「あははは、ビビッテル！」てか周りが暗い・・・いつもの場所じ
やないだと！？

?「じゃあもつといくから！避けてね？」シユバババ

あ～理解・・・銃器が、納得。だが見えない
てか、当たつてない？いや、当ててないのか・・・。

?「さすがに不利なままで可哀想だね、」そこは・・・どこだっこ？

俺「おい・・・ここ、どこだよ？」

第5話～日常世界の一端～（後書き）

まさかの新結界登場ですね

この結界の特徴はなんでしょうか？

と、その前に銃器の登場！

宝刀持ちか宝剣持ちか・・。

どっちでもないのか！？

第6話～白熊（アリス）戦との後～（前書き）

すこませんー時間あけすぎましたww
今日からりんごします！

第6話～白熊（アリス）戦とその後～

アリス「知らないんだあ w-j-cはアリスの世界なんだよ？」

俺「なるほどな・・・異と云うわけか。」

アリス「異? 違う違うw」こいつ・・・

俺「いいぜ・・・お前も宝刀狙いだろ?」

アリス「気づいてましたか」今なんだけどね w-w

俺「ならさっさと終わらす・・・つて、誰だよお前?」

アリス「? ? ? アリスですよ?」

俺「アリスは白熊だ・・・だがお前人間だろ?」しかも「スローリ

アリス「アリスは化けていただけなのです」

もうひとつわかつたことがある・・・。銃器だけじゃない、鈍器もありやがる。

アリス「では、ショータイムですよ! -!」

俺「つ! ?」バンッ!

「おいおいSGは反則じゃないか?」 SG=ショットガン

アリス「ハンデですよ、早く刀抜いてくださいよ」

俺「・・・抜いてるが?」

アリス「え? 抜けてないですよ? ?」

俺「はあ、武器の特性・・・奪うなら覚えて來い」 ちなみに特徴については神崎が教えてくれた

ドンッ チョイ反則だが・・・しかたないよね?

「後ろからは・・・反則・・・です・・。」悪い

一応説明しておくが、宝刀にはそれぞれ特徴がある、俺のは加速。まだあるらしいけどね

多分感知能力もあると思う。アリスのは、偶然ではなさそつだしな

現実

神崎「でー、なにしてたの?」

俺「はい?」

神崎「さっきまでいなかつたじゃん！」

俺「ああ、アリス探してた」アリス結界も時間経過なし

神崎「見つかったの？」

俺「おう、力バンの中に居た」

神崎「でも力バン見てたよね？」

俺「ああ、奥の方に居たみたいでさ・・・。」

相坂「まったく失礼な人です」

アリス「！」

俺「起きたか？」

神崎「おはよー」

俺「もしかして、相坂嫌われてる？　www」

相坂「え？」

ア「そんなことはないですよ？」

俺「よかつたねえ」

相坂「なぜ私が嫌われてる？」

俺「だつて、タイミングが・・・。・・あばば、剣危ないです。

周りの人見えてないのかな？」

「ごめんなさい。本当になんでもないです。はい」

ああ、剣をおしてくれた

俺「で、さっきのはな・・ジジッ

第6話～白熊（アリス）戦とその後～（後書き）

アリス戦短いww

全体的に戦闘パート短いですね・・・。

宝刀などの詳しい事はまた次の補足でやります！

第7話～一日終～（前書き）

やつと一日が終わりますね
あ、次補足です

第7話「一日終了」

ふざけてる・・・でか今い、いつもよりひどいぞ？

アリス「ちょっと！ばらさないでください！」

俺「すまん・・・でもやり方があんだろ」

アリス「緊急事態でしたから！..ちなみに正体ばらしたら怒ります！..」

俺「怒るだけかよ・・・」かわいいな、

「おつと。で、お供つてのは嘘か？」

アリス「え？嘘じやないですよ？」

俺「なるほどさつきの戦いは力試しか。その擬人化も結界内だけか？」

アリス「違います。でも無闇に使わないほうがいいと思いまして」

「あとこれがアリスの武器です！」

えっと・・・銃器、鈍器、刀か

俺「ん？この刀だけなんか違うな」

アリス「それが私の本当の武器です」

俺「なるほどね」刀はオレンジ色に発光している

「じゃあもう、もじるぞ？」

アリス「はい！」

俺「しだけど」で、さつきの・・・の続きから
神崎「さつき？」

俺「ああ、アリス。なんでカバンの中にいたんだ？」

アリス「え？ だつて次体育ですよね？」

俺「え・・・あ、違う違うwww今日は保険だwww

アリス「え！？ すいません！！」

神崎「大丈夫だよ、ちょっとあせつたけどwww

放課後

俺「さて、アリス。帰ろうか」

神崎「え！？」

俺「なんだよ・・・」

神崎「家につれて帰るの？」

俺「普通だろ？アリスもそれでいいよな？」

アリス「はい！」

俺「ということで帰るわ。じゃあな」

神崎「大丈夫かなあ・・・」

相坂「何をそこまで心配しているんですか？」

神崎「ん？なんか裏がありそうだなあ～って」

相坂「あいつの事は知りませんよ。さあ私たちも帰りましょう」

神崎「そうだね。悩んでても仕方ないもんね」

自宅

俺「ただいま）・・つて誰もいないか。」靴ないもんな

自室

俺「よし、もういいぞアリス」

アリス「はい、よいしょ」

俺「しつかし、お疲れ様。2時間はきつかつただろ」

アリス「そうですね、でも寝てたので大丈夫です！」

俺「寝てたのかよw」暇だもんな

「そういうや飯とかどうすんだ？」

アリス「擬人化時はお腹すきますがこの状態なら大丈夫です」

俺「そうか・・。

その数分後親が帰ってきた

自室 就寝前

いろんな事とばしたけどまあいいだろう

俺「アリスどこで寝る？」

アリス「普通でいいです」

俺の家はベッドではなく布団派です

俺「普通か・・・じゃあ横？」

アリス「はい、それで大丈夫です」

やうとう睡たいらしいな

第七話～一日終～（後書き）

長い一日ですねw

第 話～補足2～（前書き）

今回は宝刀の詳しい説明などですねw

第 話／補足2

結界の新種類

1、時間を経過しない結界について

時間経過しない代わりに別の宝刀所持者に介入されやすい
さらには結界内の所持者の力を下げる。

2、場所変更可能結界について

これは時間経過無し・力を下げることもない
介入されない。と普通の結界なのだが
発動するまでが長く、発動したあとが短い
と、即効性に欠ける

宝刀・宝剣について、パート2

現実時宝刀・宝剣について

現実での宝刀剣は所持者以外見えず
宝刀剣自体が粒子になつていて
わざわざ持ち歩く必要がない

現実時の威力・能力について

- ・威力は半減するが斬ることは出来る
- ・能力に変化はない（一部例外有り）

宝刀剣の発光について

- ・パートナーとなる人物がそばに居る場合
共鳴して発光する。色は持ち主の好きな色にできる
- アリスの能力について

・擬人化能力

これは宝刀の力だと思われるが実際不明である
ぬいぐるみ状態だと斬られても無傷

擬人化時の体力は普通であるが
ぬいぐるみだと半分である。

神崎と相坂の関係について

現在では友達と思われるがパートナーとも考えられる

パートナー制について

宝刀剣の所持者間で能力を共有できる

パートナー選びに制限はないが

能力や仲が良い人と組むのがいいだろう

第 話～補足2～（後書き）

次の補足は1～5部です！

第8話～2日目開始～（前書き）

タイトルが思いつかねえ　ｗｗ

今回からサイドストーリー来ます！！

第8話～2日目開始～

教室 1 - 1

さて・・・また早く来てしまったな。
今回は・・・誰も居ないな。
ちなみにアリスだが・・・。

俺「なんで擬人化してんだよ・・・。」
そう、これが早く登校した理由なのだ

アリス「えへへ～実は転入するんですよ!」
俺「え・・・?」

アリス「しかもこのクラスですよ!」
俺「え、ああ・・・うん?」

アリス「昨日決まつてたんですけど、さすがに友達無しはきついで
すから」

俺「おいアリスちょっと待て」
アリス「はい?」

俺「お前・・・どこから学校に通うつもりだ?」
アリス「もちろん亜紀さんの家から!」

俺「おいおい・・・」

アリス「両親の許可も出ていますよ?..」

俺「は・・・?いつの間に」

アリス「朝ですよ?」

そういうや起きたときアリスいなかつたな・・・。

てか親～!何納得してんだよ

俺「名前は何になるんだよ・・・。」

アリス「藤堂 愛華 だそうです」

俺「愛華つて・・・呼び方アリスの今までいいか?」

アリス「もちろんです!!」

俺「てか、職員室いかないといけないじゃねーか!」

アリス「そうですね～」

職員室

俺「失礼します！」

アリス「あれ？まだ誰も来てませんね」「おかしい・・・それ以前になぜ・・・。

誰もこないんだ？

現在 8：10分

俺「まさか・・結界の中か！？」

アリス「え？でも誰が」

俺「わからん・・・だとすると、アリスの体がどこで寝てるかが気が
になる」

アリス「もしかするとぬいぐるみになつて鞄の中にいるかも」

俺「・・・教室帰るか」

アリス「そうですね、でも私はどうしましょ～？」

俺「一旦ぬいぐるみに戻れ

アリス「はい！」

第8話～2日目開始～（後書き）

これでアリスとバレずに擬人化できますね！
忘れてないと思いますが
亞紀＝俺 ですかね？

第9話～集団睡眠～（前書き）

男子A――まさかの新キャラですよ　ww
でも男子Aはストーリーに関係ない・・・かな?

第9話～集団睡眠～

教室 1 - 1

俺「あれ？みんな来てる」

神崎「お！おっは～」

俺「おう、あのさ・・職員誰もきてないぞ？」

神崎「なんと…ミクルだね」

俺「そんな面白い話じゃねーよ」

男子A「おお藤堂・・なんだよお前ら昨日から急に仲良くなりやがつて」

俺「わるいわるいW で？どうした」

男子A「ああ、なんか今日転校生くるつてよ」

俺「ああ・・俺の妹だ」

男子A「まじかよ！、ん？でもなにでうちのクラスに？」

俺「さあな

神崎「妹いたの？」

俺「ああ、義妹がな」

神崎「なんだ義理かあ～」

俺「ん？ そういうなんでみんな寝てるんだよ」

神崎「そういうやそだね」

俺「男子Aまで寝てるし・・・。やつかもで話してたくせに」

神崎「やばい、私も眠い・・・。」

俺「ああ・・・同じく」

ここで多分寝たと思う・・・。

ちなみにアリスは鞄にはじつている

俺「ん・・・あ！やべつ寝てた」

神崎「ணணண」

まだねてんのか・・・。

いや、みんな寝てる・・・だと!?

俺「アリス! おい!」

アリス「・・・ひやい」

俺「起きろ!」

アリス「なんれすか・・・あれ? みんなねてまふね」

俺「もしかしてまだ教師きてないのか? S H R始まつてんぞ?」

神崎「うそつ! S H Rはじまつてんの!?

アリス「! ! !」

俺「神崎・・・うるさい、アリスビビッてるだろうが」

神崎「あ、ごめん。って誰!?

アリス「? ? ? アリスですけど?」

俺「ああ、こいつはこの前の白熊だ。そして義妹だ」

神崎「この子だつたのか〜・・・つてえ!?

アリス「擬人化中です!」

俺「とりあえず、アリス職員室いくぞ」

アリス「はい! ! !」

神崎「私は?」

俺「一緒にくるか?」

神崎「うん」

職員室

俺「失礼します」と

神崎「適当だね」

俺「いいんだよ、ほら」

アリス「こちらも全滅ですね!」

寝すぎだ・・・こいつら

俺「そいや相坂はどうした?」

神崎「あの子は今日休みだよ?」

俺「そうか・・。一旦帰ろう」

神崎「どこに?」

俺「教室にだ、それとも家に帰るか?」

神崎「それはめんどいです」

アリス「でも戻つてからどうしましょ?」

俺「とりあえず・・・戻ろう」

第9話～集団睡眠～（後書き）

アナザーで、職員室に行くかの決断時に
こちらでは職員室に来ていて
ですので3組にあつことはなかつたのでしう

アナザー序章+第1話（前書き）

アナザーはタイトルなしです！

ちなみにこちらはもうひとつの勢力？

世界の滅びに関係あるかも？？

主人公は別人です 姓は森 ですが名がまだ
あと同じ学校です！

アナザー序章+第1話

俺はただの学生・・・のはずだった、ありがちな話だが
ある出来事によりそのあまりにも退屈で楽しかった生活が
簡単に崩れ落ちたんだ・・・。
たかが・・・刀一本の為に。

朝 自室

俺「ねむ・・・はあ・・・暁りかよ。」

いつもと同じ朝、それは良い。ただ不思議な点があつた

俺「? なんだこの刀・・・。」

見覚えのない刀が自分の部屋にあつた。

多分家族の誰かが置いたのだろう

そんな気持ちで着替えを済ませる

リビング

朝はみんながバタバタしている

ただ眠たい俺だけが時間の輪から外れてるような

そんな気持ちになつたことはあるが、全部杞憂だった

いつも通り、朝食を済ませ学校に出かける

他の工程については話す必要もないだろう

学校門前

学校について軽く説明でもしておこうか
何の変哲もない学校 今はとくに行事もなく
だらだらとした雰囲気である。

クラスについては・・・学年別全4クラス

俺は3組だが・・・クラス分けなど気にしない
ちなみに自分の教室は三階だ

教室 1 - 3

いつも通りうるさいクラスだ・・・。

逆に静かだと居心地が悪いが、まあいい

友「よー・・ふあ」

俺「あくびしてからしゃべれ」

一応の説明 友達Aこと『神崎 繁』読みは かんざき しげる だ

神崎「でもさ、眠くな? 今日は特に!」

俺「前も聞いたぞ・・・だが眠いのは同意だ」

神崎「だよなー、昨日寝たの10時だぞ?」

俺「早いな、そんだけ寝れば眠くないはずだが・・・」

神崎「まさか・・! これは事件か!?」

俺「そんなわけないだろう・・やばいな、裏に陰謀でもあんのか? 眠すぎる」

神崎「陰謀はないないwww・・んつ?」

俺「・・・ハツ!?」

神崎「(ニヤニヤ)ねましたな?」

俺「本格的にまずい・・立ち寝、おそろしいやつめ」

神崎「ではSHRまでねますか」

俺「おう、次の休み時間に会おう

そのときは本格的にまずかつた

何がまずいかというと意識が飛びかけていた
自分の席に着いて用意を終えると

意識がなくなつた

教室1 - 3 SHR

顔を上げると同時にチャイムが鳴る

神崎はと/or/>?

あれ? クラス全員が寝てる・・・?

仕方ないよな、眠いもんな

チャイム後 5分経過

・・・あれ? 先生が来ない・・。

おいおい、まさか先生までもが寝てんのか?

俺「おい、神崎起きる」

神崎「ハツ！寝過ごしたか！？」

俺「先生がまだだから大丈夫だ、それより・・・」

神崎「？・・あれ？みんな寝てる」

俺「そうだ、こいつは陰謀とかの話じゃないぞ・・・」

神崎「え？睡眠ガスとかないでしょ？」

俺「ああ、現に俺たちは起きれている」

神崎「みんな起こす？」

俺「その前に職員室にいくべき、それともここでみんなを起こしてお
くか？」

神崎「そうさせてくれる？職員室つてあんまり・・・」

俺「わかつた、寝るなよ？ とりあえず立て」

神崎「おくさて・・いつてらガタツ」

俺「ああ、」

アナザー序章+第1話（後書き）

実はアナザーの神崎と通常の神崎は、おつとー。
それはのちのち

この話はちよつと通常の話と同じ時間軸です

アナザー第2話（前書き）

職員室到着は藤堂たちの撤退2分後

アナザー 第2話

職員室

俺「失礼します、1・3の・・・」

予想的中・・・か? よろべねえよ

案の定、教職員全滅・・・。

ただ不思議なのが、全員が席に座つていること

俺「せんせ? 起きてくださいこ(やれやれ)」

先生「・・・・・・」

駄目だ起きやがらねえ

・・・・・・・・

なんでだ? 全職員起きないとおかしいだろ
とりあえず帰ろう教室へ

教室1・3

帰つてくる間に隣とかのクラスをみたが
全滅、なんでだ?

俺「神崎?」

神崎「あはは・・・起きないよ」

俺「なんでだ? 朝あんなに騒いでたのに」

神崎「まさか外でも! ?」

俺「考えたくはないな・・・。」

神崎「みんな寝てるし一日家の様子を・・・。」

俺「俺の家は現在誰もいなはず・・・神崎お前だけ帰れ、途中で
寝るなよ?」

神崎「え? あ、う、うん! -じゃあ撤退します! -」

俺「本当にねるなよ?」

神崎「だいじょーぶ!」

とりあえず神崎は帰った、さて、俺はどうするんだ?
帰るべきか・・・いやその選択肢はないだろう

ここに神崎が帰ってきた時俺がいなければ……
おそらくは、まあいい。

そういうえば体育の授業は？

俺「！？」

グラウンドには体育の授業を受けるはずだった生徒が寝ていた……この距離だからわからないがまさか……死んでないよな？

グラウンド 1時間目開始5分後

全員生きていた、当然だよな

誰も起きる気配なし。どうすればいい？

神崎の帰還を待つか、

とりあえず今日曇りよかつたな。

教室 1-3

暇だ、することがなさ過ぎる。

現在1時間目の25分経過

神崎の家は近い、ちなみにあいつがでていったのは一時間目開始前だ 時間的には・・な

まだSHRが始まるチャイム以外は聞いていない

神崎「はあ・はあ・ただいま・・」

俺「わざわざ走らなくてよかつたんだがな」

神崎「俺だって走りたくなかつたよ・・・逃げてきんだけ」

俺「誰から？」

神崎「わからない、ただ逃げてなかつたらやばかつたかも」

俺「何を見た？」

神崎「あいつら・・・軍隊のやつなんか？ 武装してた」

俺「銃器を装備してたって事か？」

神崎「うん

俺「ほう・・・あ、そういうえば」

神崎「？」

俺「お前の家、知らない刀なかつたか？」

神崎「あつた・・けど?」

俺「お前のところにむか・・・。ん?」

神崎「どうしたの? ?」

俺「しゃがめ! !」

神崎「え! ?」

俺「まさか・・・追跡してきたのか?」

神崎「なにが?」

俺「今、武装したやつらが校内に入ってきた」

神崎「え! ? ど、どうしよう! ?」

俺「落ち着け」

神崎「う、うん」

俺「とりあえず・・・賭けだ、あいつらと会話してみる」

神崎「な!? むつ無茶だよ!」

俺「なんかされたのか?」

神崎「いや、されてないけど・・・。」

俺「その間にお前は隠れる、いいな?」

神崎「・・・・うん」

俺「じや・・・G O!」

掛け声と同時に教室から出る

出るまでは走ったんだがさすがにそれからは歩きだ

アナザー第2話（後書き）

なぜ軍隊が？ そう、これが第一の世界破壊の歯車のです
厳密に言えば、集団催眠が歯車ですね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8974z/>

終わる世界に最後の約束を

2012年1月5日23時47分発行